

民生教育委員会行政視察報告書

1 視察期間

平成29年9月1日 1日間

2 視察都市

(1) 静岡県浜松市

3 参加者

草地博昭委員長、虫生時彦副委員長、秋山勝則委員、小栗宏之委員
戸塚邦彦委員、小柳貴臣委員、芥川栄人委員、高梨俊弘委員
随員 河野順一副主任

4 視察事項

- (1) 市の概況について
- (2) 小中一貫教育について

5 考察

次のとおり

I 浜松市 人口：806,407人・面積：1,558.06㎢（平成29年4月1日現在）

1 小中一貫教育について

(1) 概要

浜松市では、平成19年4月に「浜松市小中一貫教育基本方針」を策定し、小中一貫教育の目的を「小学校と中学校の滑らかな接続」と「小規模校への対応」としてきた。平成22年5月には、「今、なぜ小中一貫教育を進めるのか」を浜松市としての考え方として打ち出し、取り組みをより具体的に示した改定を行い、引佐北部小中学校、庄内学園、そして視察をした浜松中部学園の3校を開校させた。今回の視察では、浜松中部学園の取り組みを主に視察した。

浜松中部学園は、平成19年に元城小、中保護者意見交換会において、小中一貫校について、検討したい旨の意見がだされ、教育委員会、地域と保護者の検討が始まった。あくまで保護者や地域主体で話し合いは進められ、教育委員会は保護者や地域への説明や、教育長の講演等、情報提供を中心に行ったとのこと。平成22年に元城小PTAでは小中一貫校設立が決議されたが、北小PTAは設立希望に至らなかったとのことであったが、同じ年、中学校区において、検討準備委員会、小中一貫校協議会を設置し、PTAや地域で要望書を提出し、平成25年市教委で開校準備会を設立したという流れであった。

浜松中部学園の特徴としては、「小学校と中学校9年間の学びと育ちをつなぐ教育」を軸に、施設面では①「学校教育を念頭に計画した施設」として、カリキュラムが異なる小中学校が共存する施設であるため、教室配置や校内動線に配慮した計画にする。②「周辺地域環境と調和を目指した施設」として、地域環境と調和した施設整備を目指す。③「安全・安心な施設」として、ユニバーサルデザインや防犯対策を配慮した計画とする。④「機能性・柔軟性のある施設」として、教育環境の変化や将来の改修に対応しやすい計画とする。ことが盛り込まれた。

ランドデザインとしては、「高い志を持ち、たくましく生きる子どもの育成」を掲げ、発達段階に応じた初等部前期（1～4年）、初等部後期（5、6年）、中等部（7～9年）の4－2－3制にしており、中一ギャップは同一校内で活動することにより解消するという9年間の連続性を大切にされた体制となっている。また、キャリア教育の推進や、「サポートシステム」を構築し、子どもの志を保護者や地域が一体となってサポートする体制づくりを進めている。

(2) 考察

施設面では、職員室1カ所、体育館やプール、音楽室等は2カ所設置、昇降口は1カ所など、運営面では、校長1名制、教頭2名制、養護教諭2名制などの配置、制服は中等部から、靴も白色統一は中等部からなど、2年間全職員が集まり、新体制の学校の施設面、運営面を決めてきただけあって、現場の先生方を最も意識した体制ができていると感じた。

また、地域においては徹底して地域の声を待ち、地域の合意を最優先したということで、そのおかげで学園ができてからの協力体制も強いとのことであった。

校内は運動場がまだできておらず、その他も整備途中のものも多かったことから、本市においても、子どもたちを移動させるタイミングまで考えて工事行程を組む必要もあると感じた。